

2012.07.25

「中国スパイ事件の背景にあるもの」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は7月25日水曜日です。昨日は参議院の予算委員会で税と社会保障の一体改革についての集中審議がありました。私に代り同僚の牧野たかお議員と山田俊男議員が、私が追及してきた農水産物等輸出協議会に関わる中国のスパイ事件について質問に立ちました。今回の質問を見ておりますと、一つおかしな問題がまた出てまいりました。

中国スパイ事件について政府内の調査報告書の作成を我々が要求していましたので、その提出された調査報告書をもとに2人が質問をしました。その中で中農集団に対し、協議会の家賃等の支払の引き延ばしを要請する要望書を筒井農水副大臣が出しているのです。そのサインの肩書は筒井農水副大臣ですが、サインを田中公男協議会代表が代筆していたことが明らかになったのです。そうすると、これはとんでもない事件で、公文書偽造に当たる行為として追及しなければならないのです。

今回私は質問に立ちませんでしたでしたが、いろんなところから情報を入手して私なりに今回の件について問題意識を持っています。自民党の中でも、まして民主党の中でも、田中代表、鹿野農水大臣、筒井農水副大臣、この三人はとんでもないことをやっていた、という共通認識があるのです。しかし、このおかしなことをやってきたのは3人だけの責任ではないのです。民主党と農水省が一

体となって、このおかしな農水産物等輸出協議会を作ってきた、という背景があるのです。そのことを忘れて、この3人だけに問題を背負わせようとする空気になっていますが、これはおかしなことです。そうではなくもっと全体像を見なくてはなりません。私は農水省側からいろんな話を聞きましたし、当事者である田中代表からも直接話を聴いて参りました。そして、調査報告書をずっと読んでいくと一つのことが分かってくるのです。

もともと、中国に農水産物を輸出することは日本にとってありがたい話なのです。例えば米の自給でいえば、食生活の多様化に伴いコメの消費量がどんどん減っています。ですから、せっかく良いお米を作っても国民が食べてくれないため、超過供給となり価格が下がることになるのです。米だけで生活できないどころか、ますます減反を余儀なくされていきます。しかし、将来必ず食糧危機の時代が来ることを考えたとき、そのときに慌てることがないように、米が作れないのであれば他の作付などを行うことで耕作地は維持していかなければなりません。これは農水省が常々考えてきたことであり、当然の話なのです。日本の米の生産を他の国で賄えるのであれば、耕作地を維持することに繋がり日本にとってもありがたい、ということで今回の中国に対する輸出の話は渡りに船のような話だったのです。

そもそも今回の話は、中国から日本米の輸入をさせて頂きましょう、という申し入れがなされたのです。民主党が政権交代後、色々な勉強会をしていく中

で様々な申し入れがあったといいますが、そのなかでお米の輸入の申し入れをしたのが誰かと言え、まさに今話題になっている李春光元一等書記官なのです。中国には13億の民がおり、貧しい地域では一日二食しか食べられていません。一方、13億人のうち1億人は先進国並みの所得を有する人々で、そのような裕福な方々は日本のお米を食べたい、と言っています。日本はどんどん米を輸出して下さい、そして日本米を食べる富裕層が食べなくなった中国米を残りの貧しい民が食べるようになりますから、こういう理屈で日本が米も含めた農水産物の輸出をする、という話が出てきたのです。耕作地を維持したい農水省にとってはまさに渡りに船で、協議会をつくって輸出をしよう、という話になったのです。

問題は中国側から提案をしてきた、という事実なのです。日本にとっても、いい話なのですが、外交交渉で日本が中国の要求を飲まない、と言ったときにそれでは日本からの米の輸入を止めます、といわれれば大きな打撃を日本は受けます。中国側にとっても日本が米を売らない、と言うと中国も打撃を受けることになり、相互依存の形になるのです。これが実は中国側が考えていたことなのではないか、ということなのです。

日本はアメリカとの間に日米安全保障条約を結び、以前は貿易においてもアメリカが一番大きな相手国だったのが、今や中国が一番大きな貿易相手国になっていますし、中国との関係が大きくなってきています。このことは決して悪

いことではありません。問題は、互いの関係を強めていくことでやがては日本側を飲み込んでいくという中国側の意図なのです。日本は単に米を輸出して耕作地を守ることが出来るのだと言っていますけれども、一旦これが途切れた時にどういう対応が出来るのか、ノーと言えるのかという事なのです。実はそういう覚悟がないと相互依存を無定見に強めていく、というのは危険なことなのです。

李春光氏は中国側のスパイだと言われておりますけれども、このスパイの仕事には公文書を盗むこともあります、一番大事なのは自分達の思い通りに相手国を動かしていくということです。今回の事件は中国の意図を受けて李春光氏がスパイを行い、農水産物の輸出ができるようになりかけていました。今回どういうわけでその輸出が止まってしまったのか、色々私は情報を得ておりますけれども、まだ確信的な証拠がでてきておりませんので今日はお話することは控えておきます。いずれに致しましても、中国が日本に対して飲み込み作戦をしている、ということも含めた警戒が日本側には必要である、という重要な問題を指摘しておきます。

最後にお知らせですが、7月27日の深夜25時45分から3時間、テレビ朝日の朝まで生テレビという討論番組に出演することになりました。テーマは憲法の問題だということなのですが、相手がどなたなのかということはまだよくわかりません。けれども、日頃から私が持っている憲法の問題意識についてし

っかりと述べて参りたいと思います。遅い時間なのですから、録画などをして頂いて是非御覧になって頂ければと思います。

ということで、今日は民主党の中国スパイ事件の問題点についてお話をしました。このような外交交渉一つとっても民主党に当事者能力はありませんし、先程言った大きな視点で物事をとらえるというスタンスができていません。本当に危なっかしくて仕方がないのです。1日も早く彼らから政権を奪還しなければならない、このことを訴えまして本日のビデオレターを終わります。

本日も御覧頂きありがとうございました。